

A・E・ハウスマン

3 大工の息子

(『シュロップシアの若者』47番)

「絞首刑執行人が馬車を止めた
この世の最愛の友ともお別れだ
諸君 さらばだ わたしの生命いのちはおわる
若者たちよ 生きてゆきたまえ わたしは死んでゆく

「ああ 家うちにじっとしていて 5
親父の仕事の見習いで
鉋かんなと手斧ちようなに精を出してさえいたら
若者たちよ わたしは命を落すことはなかった

「そうすれば 恐らく 10
ほかの奴らの絞首台は作っても
自分の作った舞台にぶら下がることはなかっただろう
人知れず ひっそり生きてさえいたならば

「見たまえ こんなに高く吊り上げられて
通りがかりの連中が足を止めて
拳こぶしを振り上げ 罵ののしっている 15
人知れずどころか 晒さらしもの

「こうして吊るされたわたしの両脇には
盗かどみの簾で吊るされた奴が二人
真ん中の男は愛かどした簾で吊るされたとしても
行き着く先はみな同じ 20

「じっとこちらを見つめる 輩ともがらよ
これからは別の道を歩むがいい
この首しかを確しかと見て 己おのが首いたわを労いたわるのだ
輩ともがらよ わたしのことは捨て置いてくれ

「いつの日か 人並みな終焉を迎えるがいい 25

君たちの友と違ってそつが無い諸君だから
諸君 さらばだ わたしの生命いのちはおわる
若者たちよ 生きてゆきたまえ わたしは死んでゆく」

(山中光義訳)